

令和8年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことができている。
- 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報の関係について理解することができている。
- 目的に応じて、必要な情報を見つけることに課題がある。
- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。

【算 数】

- 体積の意味や計算による求め方について理解することができている。
- 示された情報や条件をもとに、数量の求め方や根拠を数と言葉を用いて説明することができる。
- 数を四捨五入して概数で表すことに課題がある。
- 単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解することに課題がある。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- ほぼ全員が「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」だと考えている。
- 「授業で学ぶことが将来役に立つ」と考えている児童が多い。
- 「授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」と考えている児童は少ない。
- 1日平均2時間以上携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴、ゲームをしている児童の割合が高い。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・学力向上委員会を核とする組織的な取組の推進
- ・チャレンジタイム、赤ペン先生の活用による基礎・基本の徹底

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・児童が主役となり自分の考えをもち表現できる授業づくり
- ・朝タイムを活用した基礎・基本の徹底と適応問題への取組
- ・読書ボランティアによる読み聞かせや読書の時間を設定
- ・校内研修における『対話活動』の充実

(2) 児童質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・毎月の生活アンケートの確実な実施
- ・「赤ペン先生の取組」「ASK（放課後学習教室）」など、家庭・地域と連携を図った学習
- ・「キャリアパスポート」を活用した、なりたい自分について考える時間の確保

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・生活リズムの大切さの周知、SNS使用ルールの作成、家庭へ啓発機会の確保及び連携の強化
- ・学んだことを実生活に結び付けて考えたり、生かしたりする機会の確保